

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4071800314
法人名	社会福祉法人 芳寿会
事業所名	ふれあいセンター菰田
所在地 (電話番号)	飯塚市菰田142番地1 (電 話) 0948-29-4040
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 10月 5日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計		9	人
職員数	10 人	常勤 10人, 非常勤		0人, 常勤換算	4.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 13,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円	昼食 350 円	
	夕食 350 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.16 歳	最低 69 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鯉坂医院 森医院 アイ歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同じ敷地内に、生きがいデイサービス、介護保険指定のデイサービス、訪問介護、高齢者専用住宅、地域密着型特定施設があり、地域の方が慣れ親しんだ地域で、その人らしく暮らし続けられるように、利用者の状況に応じた使い分けが出来るようにされている。グループホーム利用前には、共用型デイサービスを利用したり、同じ敷地内のデイサービスを利用して、グループホームに入居する時は、系列事業所での職員間の交流があるため、スムーズに入居へと移行できている。近隣には、保育園、幼稚園、小学校、中学校、短期大学があり、それぞれ交流が行われている。理念に「毎日の生活のなかで地域との交流を図り……」と、謳っているように地域に根ざしたグループホームをめざしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	前回は、利用者と一緒に食事を作る事が改善項目として挙げられていた。その結果をふまえ、入居者と一緒におやつ作りをしたり、月に3~4回ではあるが、入居者と一緒に楽しみながら食事作りをしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を職員全員で行う意義を理解しており、職員全員がそれぞれ記入後、管理者がすり合わせを行い、一つにまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は奇数月に、地域包括支援センター、利用者代表、家族代表、知見者として地域の他事業所の管理者、民生委員、ホーム側から理事長、管理者、計画作成担当者、職員の出席のもとに行われている。主たる内容は外部評価の報告、サービス提供状況、毎月課題を決めての研修、ホーム側から気になる事等を報告し、その中で意見を出していただいている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 毎月家族宛に便りを出し、ホームでの暮らしぶりを知らせている。3ヶ月に1度は写真入の「ふれあいだより」を送っている。健康状態に関してはその都度、電話で連絡をしている。家族の意見を反映できるように、玄関に意見箱を設置し、年2回の家族会の時には、意見を出して頂くよう依頼している。常日頃よりコミュニケーションをとり、意見を言いやすい雰囲気作りにも心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、地域の敬老会や、保育園、幼稚園、学校の運動会に参加し、地元の人々と交流する機会を持っている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念に新しく、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくサービスとしての事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務所に理念を掲示し、職員は出勤したら必ず理念に目を通してしている。また日々の業務の中で、理念を振り返るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の敬老会や保育園、幼稚園、学校の運動会にも参加し、地元の人々と交流する機会を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を行う意義の理解ができており、自己評価は職員全員がそれぞれ記入後、管理者がすり合わせ、一つにまとめている。昨年の外部評価の結果をふまえ、入居者と一緒にことやつ作りをしたり、月に3～4回ではあるが入居者と一緒に楽しみながら食事づくりをしている。評価の結果については、家族全員に報告書を出し、確認印を頂いている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月の第4金曜日のと決めており、サービス提供報告や毎月テーマを決めて勉強会を行っている。ホーム側から気になる事があれば伝え、意見を頂いている。出席者から意見や質問があり、その場での回答が難しい場合は、持ち帰り、次回に必ず回答をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行事の案内をし、時間があれば来ていただいている。必要時には電話等で、相談、助言を頂いている。市から派遣の介護相談員の受け入れをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者はいないが、グループホーム協議会や市主催、介護支援専門員協議会主催等の研修会等に参加し、全職員に回覧等で伝達を行っており、必要な人には支援が出来る体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族宛に便りを出し、健康状態やホームでの暮らしぶりを知らせている。その時、一緒に領収書を添付して、預かり金の報告をしている。3ヶ月に一度は写真入りの「ふれあいだより」を送っている。健康状態に関してはその都度電話で連絡している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、年2回の家族会のときに意見を出していただくよう依頼をしている。常日頃よりコミュニケーションをとり、意見を言いやすい雰囲気作りに心がけている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列施設内での異動はあるが、グループホームのみに固定している職員もいる。また、常に系列の事業所と交流や顔なじみの関係をつくるなど、ダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢や性別を理由に採用から排除をしていない。職員は活き活きとして勤務しており、勤務外の社会参加や自己実現の権利が十分に保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域の他事業所のグループホームと一緒に人権教育を行ったり、日常の業務の中で折に触れ、人権や高齢者を敬う事の大切さを話している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て県の協議会やブロック協議会、法人内研修に参加している。また地域の他事業所と協同で研修を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他事業所のグループホームと一緒に研修を行ったり、人事交流を行っている。他にもグループホーム連絡協議会に参加し、サービスの質を向上させていくように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム共用型の認知症対応型デイサービスの指定を受けており、グループホームでデイサービスを利用したり、敷地内のデイサービスに来た時、グループホームに遊びに来ていただいて馴染みの関係をつくったりと、環境に慣れてから入所に至るよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に料理をする中で味付けやちよつとした工夫を学んだり、言葉遣いや思いやりの心を学んだり、本人から学んだり、支えあう関係や、一緒にテレビを見たり、レクリエーションをしたり、時間を共有する中で喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動の中で意向を把握したり、本人とのコミュニケーションをとる中で思いや希望を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を取り入れた介護計画を作成し、入居者・家族・職員で話し合いを行って具体的な介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに評価を行い、介護計画の見直しを行っている。その時々で変化が生じた場合は本人・家族・職員と話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスがあるので、ほとんどの行事等には参加し、顔なじみの他の職員やデイサービス利用者との交流を常に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族に定期受診等に対応していただき、今までのかかりつけ医の受診が出来るようにしている。緊急な場合は家族の了解のもと職員が協力医にて対応をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は本人や家族の意向をくみ、対応していきたいと考えているが、現在のところ、職員全員で方針の共有が出来ていない状況である。	○	事業所として終末に対する対応指針を定め、利用者や家族に伝えることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人の記録等の情報については、外に漏れないように管理をしている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はされていない。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の行動を把握し、本人の言葉に傾聴し、希望に沿うように心がけ支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併設の施設にてしてもらっている。主食はホームにて炊き、盛り付け・配膳・片付けは利用者と職員と一緒にしている。月に3回程、利用者と職員が共に食事づくりをしたり、日常的におやつ作りをして楽しんでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午前と午後、実施している。夏場は毎日、冬場は隔日であるが、利用者の希望や状況等に応じて、個別に対応している。		
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、利用者の生活歴や能力に応じて、食事の準備、片付け、裁縫等について役割を分担している。またレクリエーションや散歩等楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前はよく外出をしていたが、現在は外出を希望される方がほとんどいない。ホームの敷地内や近所への散歩にはよく出かけている。地域の行事の時は必ず声がかかるため参加をしている。		
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜は防犯の為に鍵をかけているが、日中は鍵をかけることはない。玄関にセンサーが設置しており、職員が気づく仕組みになっている。また、外に出ることがあっても顔なじみの併設の職員等の協力がある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。新人の職員には夜勤時に夜中を想定した訓練を行っている。事務所に手順書が掲示しており、ホーム内に自動通報装置がある。地域の方の協力体制もできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事摂取量と水分摂取量の記録をして、量を把握している。食事摂取時には常に声をかけをし、栄養が偏らないように気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけゆったりとくつろげるよう、畳を敷き寝転がれるようにしている。冬には掘りごたつを準備し、家庭と同じような雰囲気や居心地よく過せるように配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた物(写真・ベッド・たんす等)を家族と相談し、持ってきていただいている。入居者が違和感なく、安心して過せるように配慮している。		